



## 心を動かして

風が冷たくなってきました。木々の葉も色づいて秋の深まりと共に、冬がもう間近に迫っていることを感じます。

私たちは、皮膚が感じるものや視覚から得る情報、時には味覚から季節の移り変わりを実感します。カレンダーが12月になったという情報だけが視覚から脳に取り込まれても“冬”は実感できません。朝、家を出て冷たい風を頬に感じる。枯れた木々の葉を目にする。ほかほか湯気のたったお鍋を囲んで美味しいなぁと思う。体中で感じるのが、“冬”のイメージを膨らませてくれます。目に見えることだけで知る“冬”よりもずーっと心の中が豊かになったように感じます。

そしてそれは、幼い頃からのいろいろな経験や、感覚の記憶に支えられているような気がします。夕方、外を歩いているとどこからか美味しい匂いが漂ってきます。煮物？あっこの家はカレー？そういえば小さい時こんな匂いがしてくると、早く家に帰らなきゃって思ったんだっけ。頭の中には私の家族の顔が思い浮かびます。同じようにいい匂いのしてくるお宅の見知らぬ家族のこともちょっと想像したりします。心も動き出します。そういえば、雨が降る前には“雨の匂い”がするし、“冬の匂い”だってあるように思います。何回も経験し心を動かしたことが“雨の匂い”や“冬の匂い”の記憶を作り出しているのかもしれない。音の記憶、味の記憶、触れた記憶、匂いの記憶、今見えていることのイメージをより豊かにするのは、見えないものを感じる沢山の感覚の記憶、心を動かした記憶なのかもしれません。

子どもたちは毎日、いろいろなことに出会っています。強い北風が吹く日、外を歩きながら「こんなことは生まれて初めてだ！」と感じています。一緒に歩いている大人が「北風びゅーびゅー寒いねー。なんだか雪も降ってきそう。手、ぎゅっとないだらきっとなったかいよ。」初めての冷たい風の記憶に、心が動いた記憶が加わります。初めて友だちと喧嘩したときも「ぜったいにゆるしてなんかやらない！」と思います。でも、その友だちの絞り出すような小さな声。「ごめんね」・・・小さなごめんねの声の記憶に、心が動いた記憶が加わります。もう一度同じような場面に出会った時には、そこには見えていない様々なことに思いが及んでいくかもしれません。

自然の中で、人の中で五感をフル稼働させてたくさんのことを感じてほしいと思います。共に生きる大人たちは、その五感の記憶に豊かな言葉で色を付け加えましょう。きれい・さみしい・うれしい・ありがとう・・・心を動かす経験を一緒にできたらいいなぁと思います。

星の王子様はキツネに教えられました。『心で見なくちゃ・・・大切なものは目にはみえない』心が動かなければ、大切なものも見えてはこないのです。